

1. 科目名 (単位数)	図画工作Ⅰ (小) (2 単位)	3. 科目番号	SJMP1141 SJOT1141 EDEL1304
2. 授業担当教員			
4. 授業形態	実技、講義	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	図画工作ⅠからⅡの順で履修することが望ましい。		
7. 講義概要	実技や講義を主体とし、造形表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形に関わる基本的な知識や技能を習得し、子どもたちの創造性豊かな表現活動を支えるための基礎的な力を身につけていくことを目的とする。 制作実践を踏まえ、自身の造形表現の経験を豊かなものにしていくとともに、指導者として子どもの造形活動にどのように関わっていくかを考え、幼児期・児童期の造形の特徴や教育的意義への理解を深めていく。その中で表現の面白さを実感し、自分らしさと向き合い、自身の感性と創造性を育む。		
8. 学習目標	1. 技術的な「上手・下手」とはならず、ものづくりの楽しさや表現の喜び、感動を実感として得る。 2. 子どもたちの生き生きとした表現に寄り添うことのできる感性と、柔軟な観察眼を養う。 3. 発達段階における造形の特徴を理解し、興味を引き出す題材設定や援助の在り方について学びを深める。 4. 素材体験や題材研究の経験を重ね、造形教育の指導者として不可欠な基礎的造形力を身につける。 5. 造形活動を行う場の在り方について考察を深め、安全性に配慮された適切な環境を構築する力を養う。		
9. アサシメント (宿題) 及びレポート課題	1. ポートフォリオ (振り返りカード) の作成と毎時の制作課題をファイリングして提出 (フォームズなど)。 2. GIGAスクールで活用されているFormsやgoogleソフトを作品提出や鑑賞授業として、平行活用していく。 3. 学習の成果を課題レポートとして提出する。レポート課題については、授業の中で提示する。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】槇英子『保育をひらく造形表現』萌文書林 小学校関連の作品や資料は随時デジタルで配布する。		
11. 成績評価の規準と評価の方法	○成績評価の規準 1. 児童の表現に寄り添った造形活動の在り方について考える力がついたか。 2. 発達段階における造形表現の特色に関する基礎的な知識が身につけられたか。 3. 児童の造形活動を指導する上で不可欠な基礎的造形力、技能が身につけられたか。 ○評価の方法 授業への取り組み、制作や鑑賞活動の成果、レポート等を総合して評価する。 1. 授業への積極的参加 総合点の 20% 2. 日常の学習状況及び自己課題への取り組み 総合点の 30% 3. 制作や鑑賞活動の成果 (ポートフォリオ等) 総合点の 30% 4. 課題 (作品発表、レポート等) 総合点の 20%		
12. 受講生へのメッセージ	造形指導者として子どもの柔軟な感性に対応していくためには、様々な素材に親しみ、豊かな造形体験が必要である。本講義では造形活動の指導・実践に必要な材料・用具の取り扱いについて理解するとともに、造形の基礎技能の習得を図る。また、造形活動で用いられる基本的用具 (クレヨン・粘土等) の扱い方と、製作の材料を活かした多様な表現、安全指導などについて学ぶ。小学校・幼・保の連続性を視野に入れた絵画・造形の発達段階について理解を深めていく。GIGAスクール構想が加速する小学校の造形表現の内容を紹介すると共に、様々な視聴覚教材も授業に随時活用していく。 【注意事項】 1. 造形活動で用いられる様々な材料・用具 (クレヨン・画用紙・油粘土・筆等) は、各自が準備すること。 授業内で随時伝えていく。 2. 絵の具などを使用するため、汚れて良い服装で出席すること。		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション (授業内容、目的、用意する物など) 造形活動のねらいと内容 (材料・用具についての正しい知識と安全指導) (講義)	事前学習	テキスト第1章①と配布資料を読む。
		事後学習	学習内容と内容をポートフォリオにまとめる。
第2回	児童の造形活動で扱われる描画材料について (講義) 平面表現Ⅰ：引っかき絵 (スクラッチ①クレヨンについて) 版の面白さを理解した下地づくり (演習)	事前学習	テキスト p. 136 を読む。クレヨンの準備。
		事後学習	学習過程と内容をポートフォリオにまとめる。
第3回	平面表現Ⅰ：引っかき絵 (スクラッチ②様々な線描) 様々なイメージで線を描く。きれいと感じる部分を伝え合う (演習)	事前学習	テキスト p. 25 と配布資料を読む。
		事後学習	学習過程と内容をポートフォリオにまとめる。
第4回	平面表現Ⅱ：はじき絵 (パチック) テーマを決めた協同制作とプレゼンテーション (Padlet などを活用したグループ活動)	事前学習	テキスト p. 25、p. 127 を読む。ポスターカラーの準備
		事後学習	グループ同士で学びをつなげることができたか、ポートフォリオにまとめる。
第5回	平面表現Ⅲ：合わせ絵 (デカルコマニーと糸引き版画) 偶発的に表れる色と形の不思議さに気づき、ことばや文字で表す。できた作品から見立て遊びに発展。	事前学習	テキスト p. 44、p. 133 と配布資料を読む。
		事後学習	授業の記録、製作した作品を整理し、ポートフォリオにまとめる。ファイルしておく。
第6回	平面表現Ⅳ：マーブリングとにじみ絵 色の三属性、色相環及び色彩のイメージと心理効果について (講義+演習)	事前学習	テキスト p. 25、p. 36、p. 132 と配布資料を読む。
		事後学習	偶発的に表れる色と形を利用して、絵で表す工夫を試みる。
第7回	平面表現Ⅴ：型押し絵 (スタンピング①野菜の活用)	事前学習	テキスト p. 42、p. 135 と配布資料を読む。

	身近な材料を用いた表現（演習）	事後学習	学習内容をポートフォリオにまとめる。
第 8 回	平面表現Ⅴ：型押し絵（スタンピング②廃材の再利用） 同じ材料から異なる表現が生まれることに気づく。	事前学習	配布資料とテキスト p.16、p.17 を読む。
		事後学習	平面作品とポートフォリオをファイリングしてまとめる。
第 9 回	I C Tを活用した造形表現 名画鑑賞教育について -Web 及び様々な視聴覚教材を使った対話型鑑賞教育-	事前学習	テキスト p. 46、p. 159 と配布資料を読む。
		事後学習	グループで話し合いを進め、デジタルで共有してまとめる。
第 1 0 回	簡易ミニ絵本の制作とデジタル紙芝居 実習でも活用できる物語の制作と発表	事前学習	テキスト p. 47 及び配布資料を読む。
		事後学習	絵本の自己評価と他己評価 U S Bなどの記憶媒体に保存してまとめる。
第 1 1 回	立体表現について 粘土の特徴と種類（講義+演習） 粘土をこねるなどの手指の動きと発達、モデリング・カービングについて	事前学習	テキスト p. 29、p. 39 を読む。油粘土の準備
		事後学習	多様な粘土の表現を追求することができたか、ポートフォリオにまとめる。
第 1 2 回	立体表現① 粘土から和紙へ（ちぎり絵、張り子） 張り子技法を応用したお面づくり	事前学習	テキスト p. 47、p. 130 を読む。障子紙の準備
		事後学習	学習過程と内容をポートフォリオにまとめる。
第 1 3 回	立体表現② 粘土から和紙へ（紙の特性・接着の種類・のり、ボンドの活用）型取りについて	事前学習	テキスト pp. 46～52 と配布資料を読む。
		事後学習	学習過程と内容をポートフォリオにまとめる。
第 1 4 回	立体表現③ 型を使った和紙の活用（お面づくり） 立体に表す活動の種類と表現（講義+演習）	事前学習	テキスト p. 156 と配布資料を読む。
		事後学習	学習過程と内容をポートフォリオにまとめる。
第 1 5 回	立体表現④ 立体の彩色（色と形）遊びを楽しむ装飾としての環境構成	事前学習	テキスト p. 46、p. 159 と配布資料を読む。
		事後学習	学習過程と内容をまとめる。最後の発表（ジャムボード）の準備を進める
期末試験 作品発表会			